

院内感染対策委員会

《概要》

近年、社会問題となっている院内感染症の発生および伝播を防ぐ目的で組織され、院内感染対策委員会、院内感染対策チーム(ICT)院内感染対策ワーキンググループから成り立っている。主な実働部隊であるワーキンググループのメンバーは、医師(リンクドクター)・看護師(リンクナース)・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師でと他職種により構成され、感染防止に関するさまざまな活動を行っている。

活動方針は毎月第1水曜日に行う院内感染対策チームで決定し、第3水曜日に開催する院内感染対策ワーキンググループ会議で議論したうえで、最終的に第4月曜日の院内感染対策委員会で報告し、承認を得ている。実際の感染対策活動は、ワーキンググループの中を更に小グループに分け、細かい対策を行っている。

ICT ラウンドは毎週金曜日に奈良県立医科大学から中川医師を迎え、抗菌薬の適正使用に対する介入を目的として行っている。

教育活動としては、年3つのテーマで院内感染対策研修会を実施、中途採用者への研修も実施している。

日本環境感染学会総会には平成23年度は当院から2題の演題を発表した。

サーベイランスの関しては、耐性菌サーベイランス、中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス(BSI)を行いその結果をフィードバックしている。

平成23年9月結核発症職員の発見が遅れ、対象病棟での結核感染有無の調査を約5カ月間かけておこなった。全ての検診を終えて、保健所との協議の結果「今回は集団感染をしていなかった」と判断した。今回の発見が遅れた原因として、「中途採用職員への入職時の健康診断書の提出を必須としていなかった」「定期健康診断の結果、要精査者についての報告が産業医へ全くなかった」とのシステムに問題があることがわかった。平成23年9月以降「採用職員全員に入職時、健康診断書提出は必須」「定期健康診断の結果、要精査者について産業医へ報告する」に変更した。また新規入職者への結核感染の有無を調査する方法をツベルクリン反応1回でおこなっていたが、平成24年度よりQFT検査に実施へ変更した。

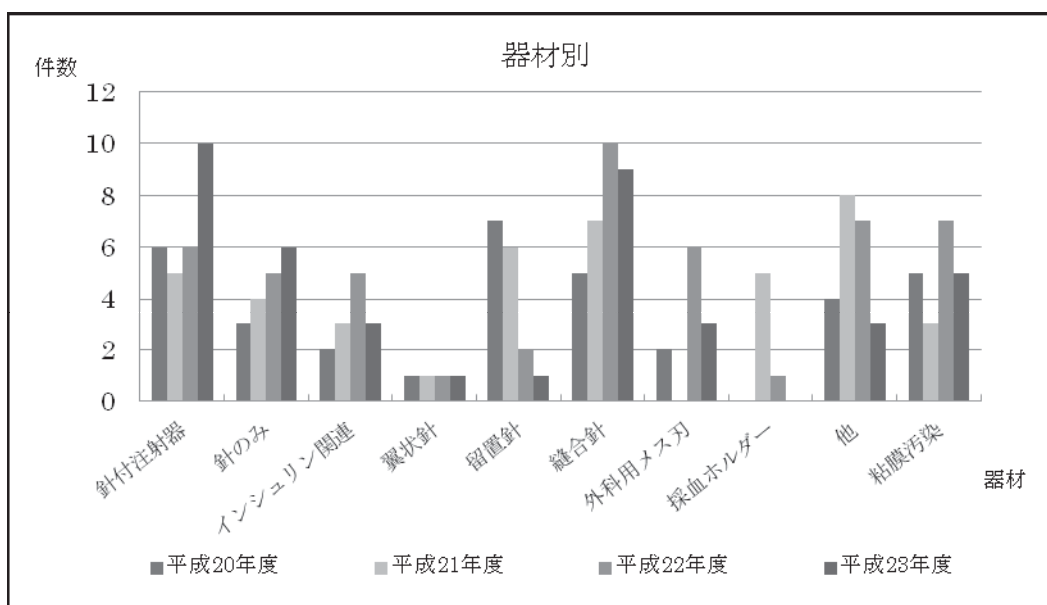
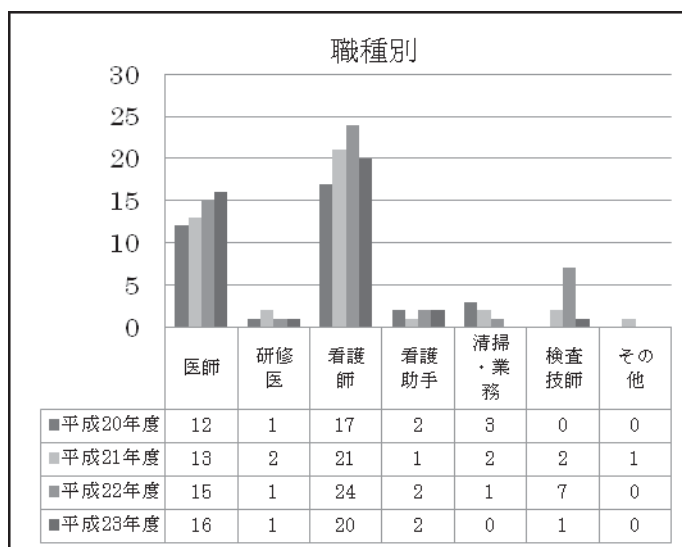
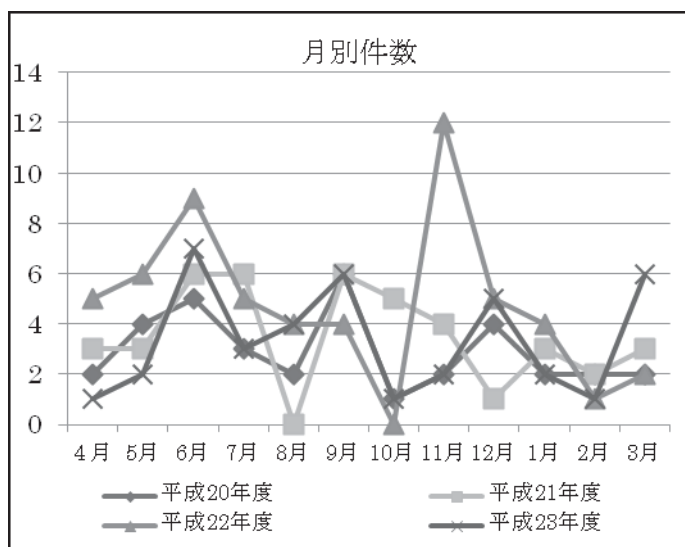
《実績》

平成 23 年度 院内感染対策ワーキンググループの活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	BSI 針刺し、粘膜汚染	大野
予防基準	マニュアル作成	上嶋 貝原 竹下 森 大野
医療材料	新規医療材料の検討	
教育	職員に対する教育活動（院内感染対策研修会、ミニ勉強会、手洗い実践・チェック）	玉置 Dr 布野 清水 高田 松本 須合 岩本 大野
清掃関係	針落下の状況調査、清掃ミーティング	大野
広報	Infection Control News の発行	船戸 長岡 田井 田代 山村 Dr 大野
耐性菌、抗生剤	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス	玉置 Dr 須合 泉原 北島 大野

◆ サーベイランス

《針刺し・粘膜汚染 月別件数》



【評価】

平成23年度は平成22年度に比べ粘膜汚染も含めると8件の増加が見られた。粘膜汚染では急変時の大量出血による汚染が一度に4件報告があった。職種別では看護師が多くなっており、割合(件数/看護師総数:H22.9)に換算すると7.2%で平成22年より1%増加がみられた。医師は同様に割合計算すると15.5%であり、こちらも平成22年度と比較すると2%の増加がみられた。全報告数に対する割合では、看護師・医師からの報告はともに48%であった。どの職種にも共通する傾向として同じ人が針刺しすることが多く、医師・看護師・検査技師それぞれ1~3名にみられた。

器材別では縫合針による針刺し9件(平成22年10件)が昨年同様多く報告された。今年度最も多かったのが針付注射器10件(平成22年6件)次に外科用メス刃6件(平成22年4件)であった。また、手袋装着必要場面での装着率は84%であり(平成22年80%)を上回る結果であった。

平成22年度は防止対策として留置針の変更を行ったが、今年度は留置針での針刺しは1件となっている。

【BSIサーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2010年4月～2011年3月	93,499	8,752	0.09	3.1

◆ 教育

院外講師を招いての講習会

講師： 関西医大枚方病院第1内科 診療教授 感染症担当 宮良高雄先生

日時：平成23年10月19日（水）17時30分から

ビデオ研修

11/4（金） 11/7（月） 11/7（水） 11/16（水）

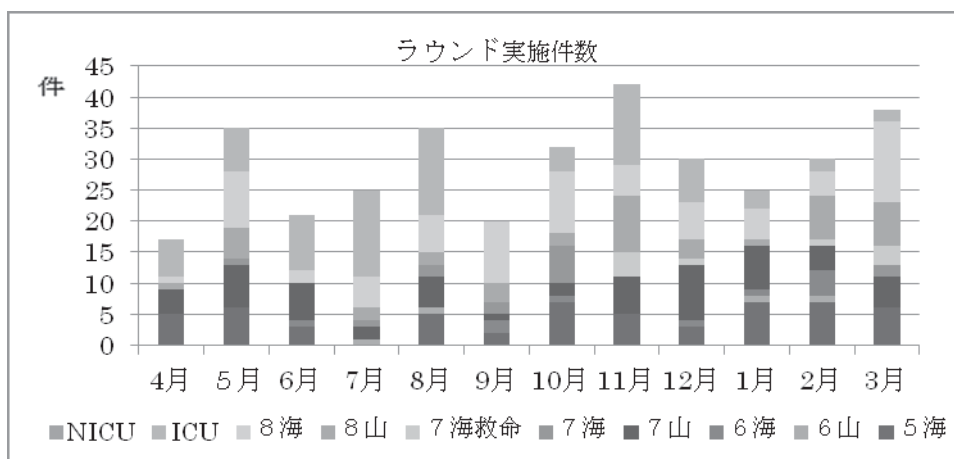
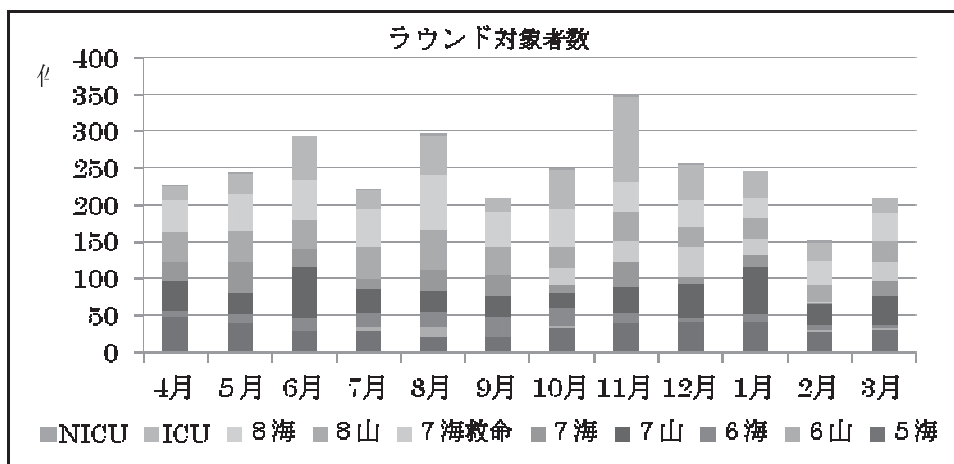
内容：「やっぱり大事な標準予防策と感染経路別予防策」

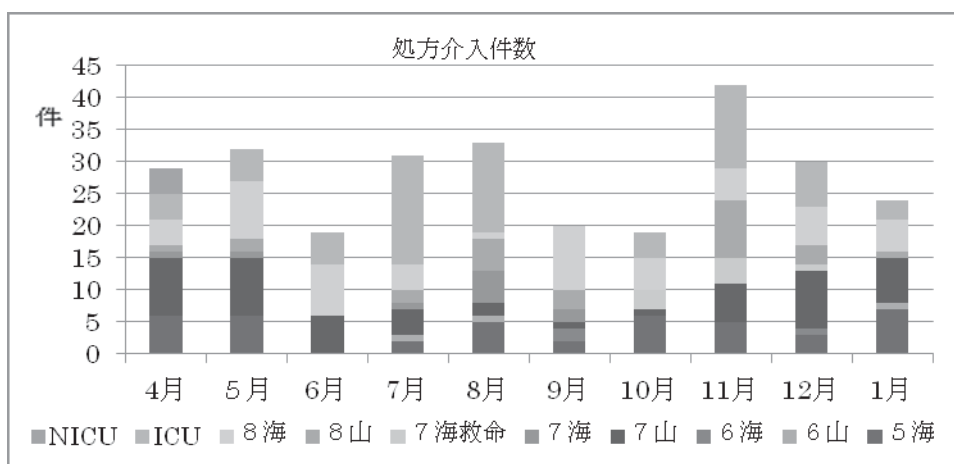
針刺し・血液培養の取り方				出席率 60%
6/14（火）	6/15（火）	7/13（水）	7/20（水）	8/17（水）
「やっぱり大事な標準予防策と感染経路別予防策」				出席率 53%
10/19（水）	11/4（金）	11/7（水）	11/16（水）	
結核				出席率 57%
1/25（水）	1/31（火）	1/26（木）	2/6（月）	2/15（水）

◆ 広報

インфекションコントロールの発行

◆ ICTラウンド件数





《業績》

(1) 学会研究会報告 (2011.4~2012.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	NICUにおけるMRSAアウトブレイク予防に至った取り組み	清水香織 西出あや子 布野智恵美	第27回日本環境感染学会	2011.2.4
2	産婦人科病棟に勤務する医療職員の結核発症を経験して	大野博美 玉置俊治	第27回日本環境感染学会	2011.2.4